

# 血液透析患者の震災に対する備え ～携帯用災害時緊急対応カード配布を通して～

クレア焼山クリニック 1)、博愛クリニック 2)

○藤井恵子 (ふじいけいこ) 1)、永谷美子 1)、鎌田正彦 1)、有田和恵 1)、  
桐林 慶 1)、高杉敬久 2)

# はじめに

透析医療の現場にあつて、地震災害対策は必須である。しかし、血液透析中の震災対策（緊急離脱訓練etc.）の重要性が認知されている一方で、非透析中を想定した震災対策（避難、被害情報の交換etc.）については患者任せとなりがちである。

# 目的

震災発生時の対処法と関連情報を記した「透析患者災害時対応カード」を作成、配布することにより、震災対策についての啓蒙、不安度の軽減、対処法の認識度の向上を図る。

# 対象と方法

当院で維持血液透析中の患者48名に対し、震災に対する意識、不安度、対処法の認識度についてVAS (visual analog scale)を用いて聞き取りアンケート調査を行った。

当院で作成した「透析患者災害時対応カード」の配布前後で調査結果を比較検討し、患者背景因子との関連性について検討した。

# 患者背景

---

Sex(m/f)	32 / 16 (N=48)
----------	----------------

---

Age(yr)	67.1 $\pm$ 10.9
---------	-----------------

---

HD duration(yr)	5.7 $\pm$ 5.2 (0.3~23.7)
-----------------	--------------------------

---

DM/non-DM	26 / 22
-----------	---------

---

# カードの表面

## ● 震災で電話が不通になった場合

NTT災害用伝言ダイヤルを用いて、  
かかりつけ透析施設からのメッセー  
ジを聞き、指示に従って下さい。

1 7 1

【音声ガイド】

再生は 2

【音声ガイド】

博愛 または クレア焼山の電話番号

※電話番号は市外局番からダイヤルすること

【音声ガイドにしたがって再生する】

常時  
携帯

## 透析患者災害時対応カード

### 透析中に地震が発生したときの行動

- ① 揺れが収まるまで血液回路をしっかりと握り、穿刺部への影響を少なくする。  
ベッドから転落しないよう踏ん張り、落下物から身を守るため布団をかぶる。
- ② 針が抜けた場合は、反対の手で押さえて可能な限り止血する。
- ③ 慌てず、透析継続か中断かの指示を待つ。
- ④ スタッフの緊急指示があった場合のみ、備え付けの「緊急離脱セット」を用いる。  
(動脈側、静脈側をそれぞれ2本のコッヘルで遮断し、各コッヘルの間をハサミで切断。)
- ⑤ 避難場所、被災後の透析予定についてスタッフの指示を受ける。

# カードの裏面

## ●本人情報

カード記載年月日  
年 月 日

写 真

氏 名	
自宅住所 (連絡先)	
勤務先/ 学校名	
勤務先/学校 住所(連絡先)	

## ●かかりつけ透析施設の連絡先

博愛クリニック

呉市中央2-6-13

電話：0823-23-8911

e-mail: hakuai@urban.ne.jp

クレア焼山クリニック

呉市神山3-3-3

電話：0823-34-5366

e-mail: cyc@mx4.alpha-web.ne.jp

## ●家族の緊急連絡先

氏 名	電 話 番 号 等

## ●家族の避難場所、災害時対応病院

※家族で避難する場所や連絡先を決めておくこと

近隣避難場所①	
生活避難場所②	
広域避難場所③	
災害拠点病院	国立呉医療センター 中国労災病院
災害協力病院	呉共済病院
最寄りの外科	

発行：医療法人社団スマイル 2009年

# 透析に関する地震災害についてのアンケート

## (1) 大地震に対する漠然とした不安感は？

全く無い 非常に不安  
0 \_\_\_\_\_ 10

## (2) 透析中に起こる大地震について

2-1) 透析中の大地震に対する不安感はどのあたりだと思えますか？

全く無い 非常に不安  
0 \_\_\_\_\_ 10

2-2) 透析中の緊急的な対処方法についての予備知識レベルはどのあたりだと思えますか？

全く無い 充分にある  
0 \_\_\_\_\_ 10

## (3) 非透析中に起こる大地震について

3-1) 在宅中の大地震に対する不安感はどのあたりだと思えますか？

全く無い 非常に不安  
0 \_\_\_\_\_ 10

3-2) 在宅中の緊急的な対処方法についての予備知識レベルはどのあたりだと思えますか？

全く無い 充分にある  
0 \_\_\_\_\_ 10

3-3) 次の透析に備えてとるべき行動についての知識レベルのどのあたりだと思えますか？

全く無い 充分にある  
0 \_\_\_\_\_ 10

3-4) 震災時の情報収集の手段についての知識レベルはどのあたりだと思えますか？

全く無い 充分にある  
0 \_\_\_\_\_ 10

3-5) 避難のために必要な情報(避難所の位置など)は、どの程度持っていますか？

全く無い 充分にある  
0 \_\_\_\_\_ 10

3-6) 避難のために必要な持ち出し物品の準備は、どの程度されていますか？

全く無い 充分である  
0 \_\_\_\_\_ 10

3-7) ライフライン停止時に、三日間を乗り切るための準備はどの程度されていますか？

全く無い 充分にある  
0 \_\_\_\_\_ 10

## (4) 大地震における情報伝達について

4-1) 安否確認の手段である「災害ダイヤル171」について知っていますか？

全く知らない 充分に知っている  
0 \_\_\_\_\_ 10

4-2) 災害時対応のための情報をまとめた携帯用カードがあった方が良いと思えますか？

全く必要ない ぜひ必要だ  
0 \_\_\_\_\_ 10

# カード配布前後のアンケート結果(1)

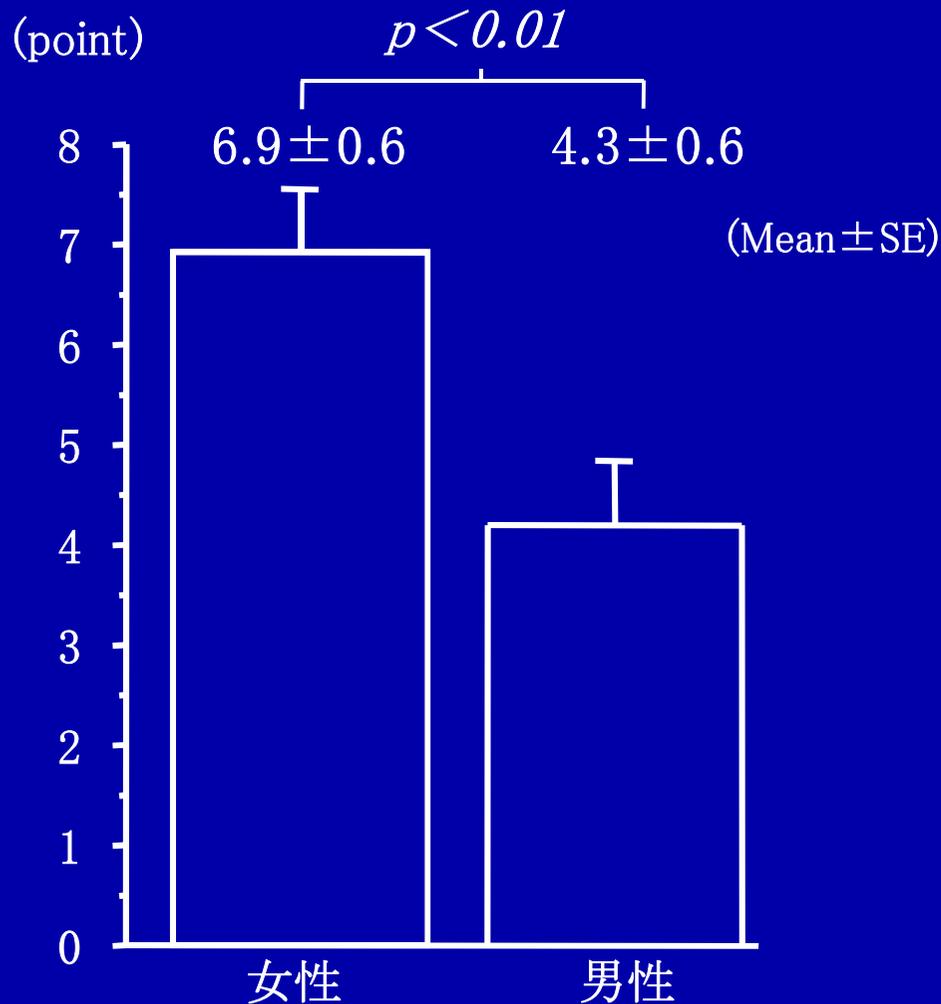
	配布前	配布後	
(1)大地震に対する 漠然とした不安感	5.1±3.1	4.8±3.0	<i>ns</i>
(2-1)透析中の大地震 に対する不安感	5.2±3.4	5.1±3.3	<i>ns</i>
(2-2)透析中の対処方法 についての予備知識	3.0±3.0	4.1±3.3	<i>p&lt;0.005</i>
(3-1)非透析中の大地震 に対する不安感	5.0±3.5	4.8±3.3	<i>ns</i>
(3-2)非透析中の対処方法 についての予備知識	4.3±2.8	4.5±2.6	<i>ns</i>
(3-3)次回透析に備える為 の行動についての知識	3.2±3.3	4.6±3.2	<i>p&lt;0.0001</i>

# カード配布前後のアンケート結果(2)

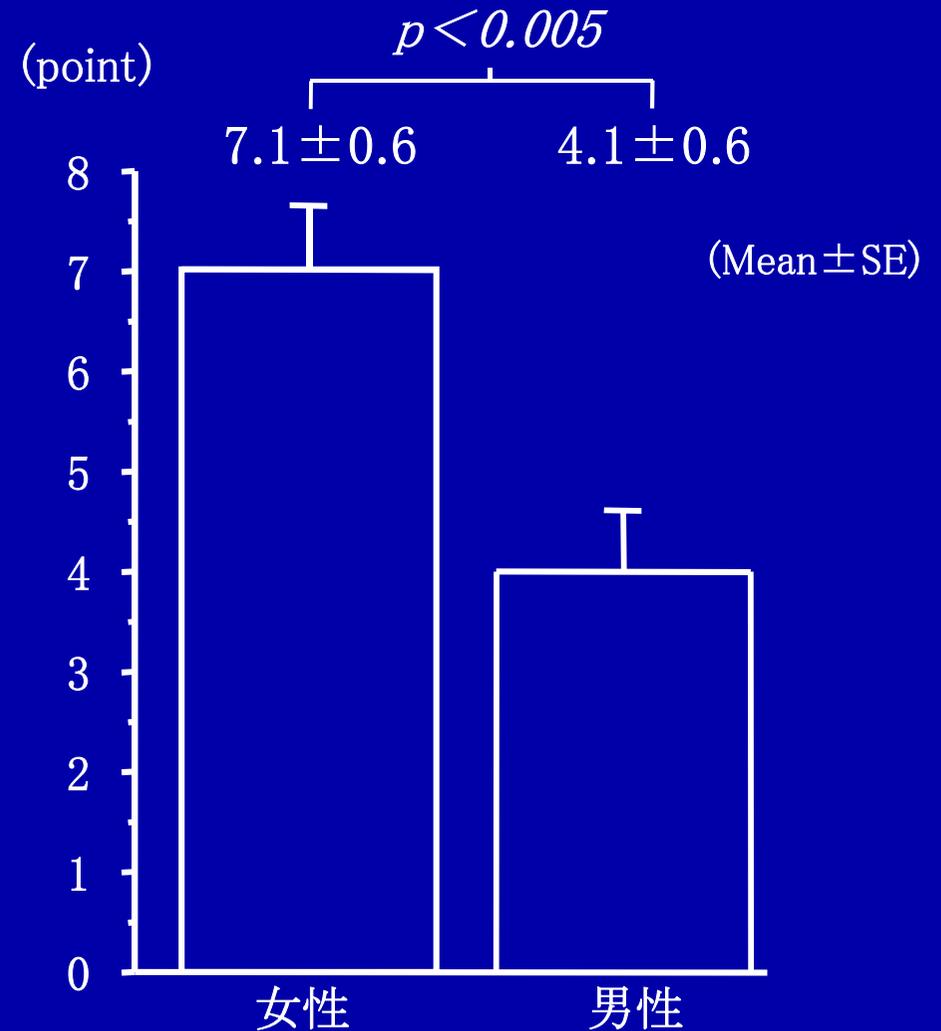
	配布前	配布後	
(3-4) 震災時の情報収集手段についての知識	4.6 ± 3.3	5.3 ± 3.1	<i>p</i> < 0.005
(3-5) 避難に関連する情報についての知識	5.6 ± 3.8	6.7 ± 3.0	<i>p</i> < 0.001
(3-6) 避難時に持ち出す物品の備え	1.0 ± 2.2	1.2 ± 2.6	<i>p</i> < 0.07
(3-7) ライフライン停止時のための備え	1.5 ± 2.5	1.9 ± 2.9	<i>ns</i>
(4-1) 災害ダイヤル171についての知識	2.1 ± 3.4	4.4 ± 3.8	<i>p</i> < 0.0001
(4-2) 災害時対応カードの必要性について	6.7 ± 3.8	7.3 ± 3.5	<i>p</i> < 0.01

# アンケート結果の男女比較 (設問2-1)

透析中の大地震  
に対する不安感 (配布前)



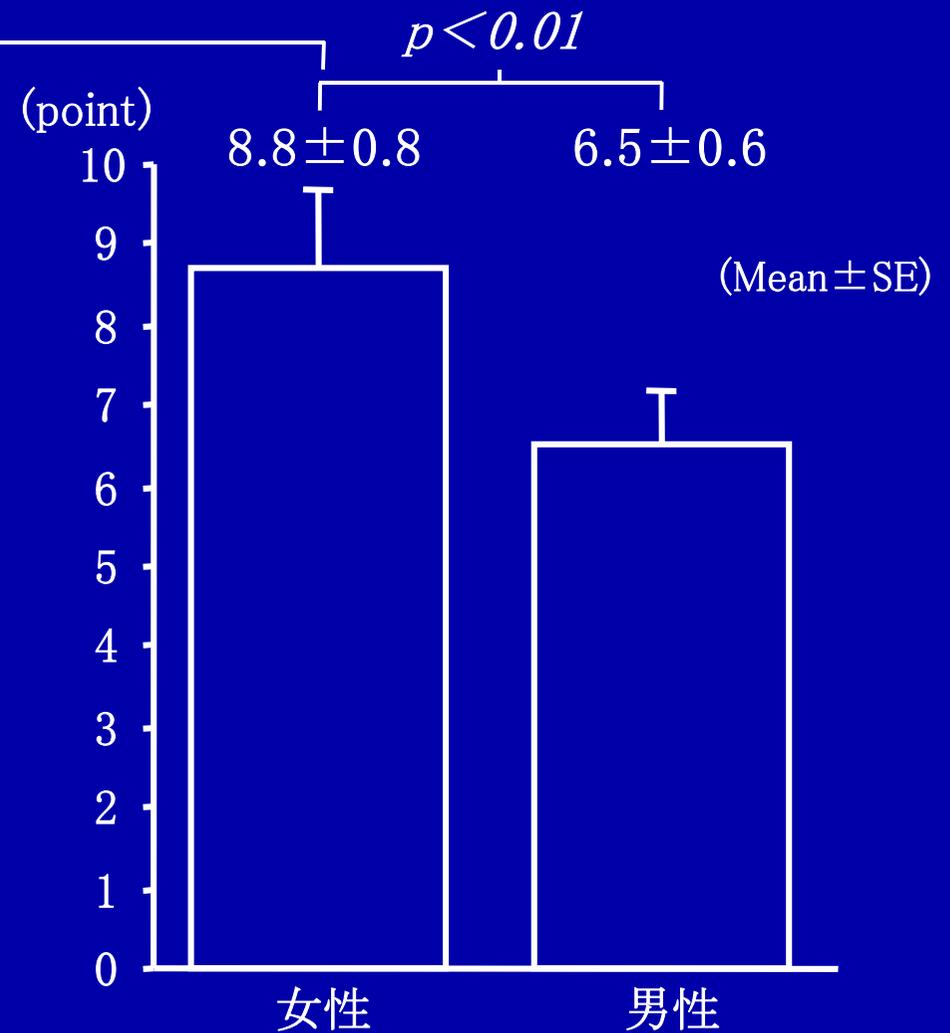
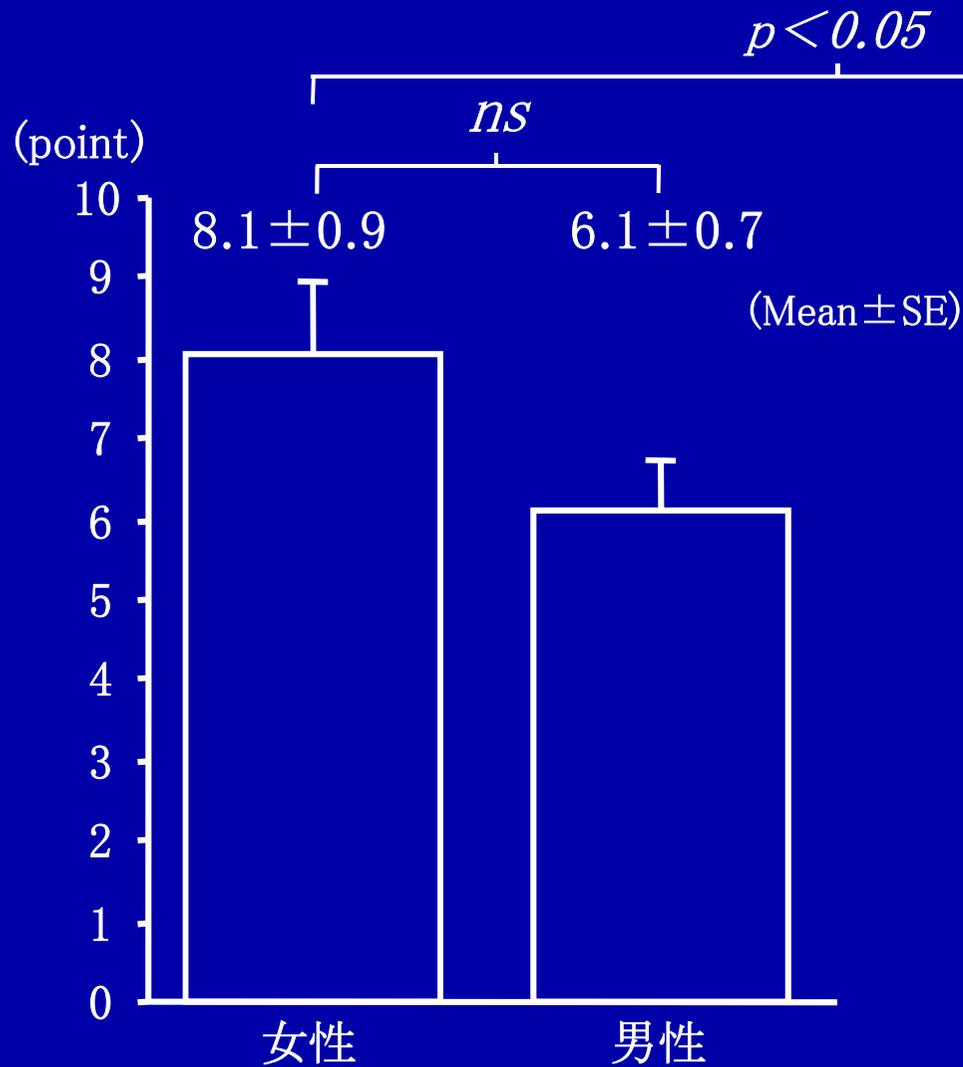
透析中の大地震  
に対する不安感 (配布後)



# アンケート結果の男女比較 (設問4-2)

災害時対応カードの  
必要性について(配布前)

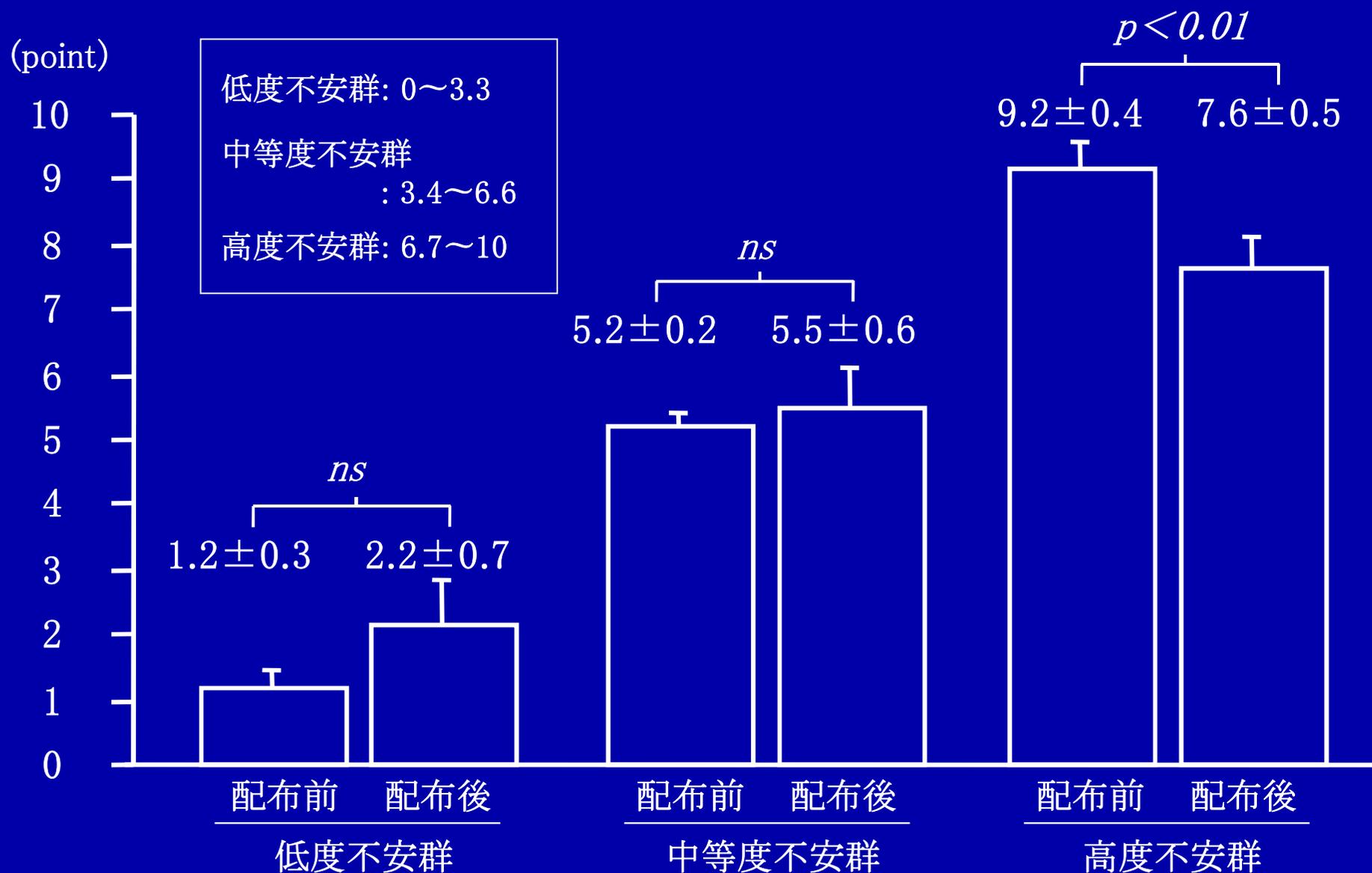
災害時対応カードの  
必要性について(配布後)



# アンケート結果の不安度群別の比較 (設問2-1)

～透析中の大地震に対する不安感～

(Mean ± SE)





# まとめ

- 1) 震災への不安、対処法の認識度は、各種背景因子に関連性が認められた。
- 2) カード配布の前後で、震災対処法についての認識度が向上し、高度不安群において震災に対する不安度が軽減した。
- 3) 震災時の具体的な備えについての行動変化は明らかではなかった。

# 考 察

震災への不安、対処法についての認識度は、患者の背景因子に関連して個々に大きく異なっており、きめ細かな対応が必要であると思われた。

非透析時に携帯、活用できる「透析患者災害時対応カード」は、不安軽減、対処法の認識度改善のために一定の効果をもたらしたが、一方で具体的な備えについての行動変化は明らかでなかったため、更なる啓蒙と指導が必要であると思われた。

# 結 語

「透析患者災害時対応カード」を用いた啓蒙と指導は、透析施設における震災対策として有効である。